

目次

序文

序論 科学史における全体的方法……………	一
第一章 十七世紀の危機と科学革命……………	七
第二章 ガリレオ・ガリレイ——近代技術的学知の射程……………	一五
第三章 フランス革命と科学思想……………	二四一

第四章 ドイツ近代大学建設と科学思想

第五章 ヴァイマル文化と現代数学の始原

第六章 マルクスの科学論——その再構成

後記

索引(人名・事項・文献)

第一節 ヨーロッパ近代科学と非西洋の近代——座標軸の設定

第二節 十七世紀ヨーロッパの全般的危機

第三節 ヴェーバー・マートン説再考

第四節 中世アリストテレス主義とルネサンスの革新

1 中世自然哲学における量化のモティーフ

2 科学史におけるルネサンス再考

第五節 フランスにおける反スコラの学問構造の形成

1 ペトルス・ラムスの中世弁証論批判

2 フランス対抗宗教改革と懐疑論的危機

3 デカルトにおける新しい確実性の原理の追究

第六節 ガリレオにおける自然哲学の数学化のモティーフ

第七節 イギリス革命と実験科学の興隆

1 ボイルと懐疑論的哲学の建設

2 ヴェーバー・マートン説の批判的総合

第一節 一九三〇年代のガリレオ問題

第二節 ガリレオの「哲学」をめぐる論争

1 プラトニスト・ガリレオ

2 実験的科学家・ガリレオ

第三節 落体法則発見過程をめぐる論争

1 中世科学とガリレオ

2 思考実験説——メルセンヌとコイレ

3 斜面の実験——手稿断片にみるガリレオの素顔

第四節 ガリレオの学知の構造——数学・実験・自然的世界

1 ガリレオにおける暗黙知の次元

2 ガリレオと数学

3 機械学イェーニヒクと自然的世界

第五節 近代科学者の誕生——制度的背景

1 新しいアカデメイア

2 認識関心の移行と自律化

第六節 ガリレオ死後のガリレオ問題——科学史の課題

第一節 第二の科学革命

第二節 ジャコバン主義の科学論

- 1 多様な顔をもつ十八世紀の科学思想
- 2 ジャコバン体制下の科学思想——王立科学アカデミーの閉鎖
- 3 ルソーとデイドロの反ニュートン主義

第三節 科学の制度化と専門職業化

- 1 エコル・ポリテクニクの建設と解析革命
- 2 実験物理学の理論化と数学化
- 3 科学の専門職業化とその科学思想への影響

第四節 決定論的宇宙像の夢と現実

- 1 実験物理学の数学化における二つの傾向——物理的力学 对 解析的力学
- 2 ラプラスの決定論的宇宙像の脚本とその言語
- 3 ラプラスとナポレオン体制下の学士院^{アカデミー}
- 4 ラプラス・パラダイムとアルクイユ会

